研 究 業 績 書

(2017 年 10 月 12 日作成)

専門分野　国文学（俳文学の研究、近世～近代）
氏　　名　藤田真一（ふじたしんいち）

著書・学術論文の名称、単著・共著の別、発行所・発表雑誌・発表学会の名称（巻）、発行・発表の年月（ページ数は省略）

〔著書（単著）〕

1、風呂で読む　蕪村　　単著　世界思想社　1997 年 4 月
2、蕪村 俳諧遊心　　単著　若草書房　1999 年 7 月

＊同書所収の既発表論文は以下のとおりである。各編のタイトルおよび掲載誌等を順に掲げておくことにする。

序文　蕪村追悼『から檜葉』から
第一章　蕪村とその時代
①　蕪村時代の俳諧：岩波書店『日本文学史』第 9 巻（原題「俳諧の革新」）
第二章　蕪村とその周辺
②　蕪村・滑稽交友録：新稿
Ⅱ　太祇
③　太祇伝小考：大阪俳文学研究会『会報』27 号　1993 年 10 月
④　『太祇句選』考：俳文学会『連歌俳諧研究』82 号　1992 年 3 月
Ⅲ　嘯山
⑤　俳諧師嘯山：大阪大学国語国文学会『語文』43 号　1984 年 6 月
⑥　俳諧と心学：大阪俳文学研究会『会報』20 号　1986 年 10 月
Ⅳ　几董
⑦　『あけ烏』試論：大阪俳文学研究会『会報』24 号　1990 年 10 月
⑧　几圭の没年：大阪俳文学研究会『会報』26 号　1992 年 10 月
⑨　几董・春夜楼の形成：大阪俳文学研究会『会報』28 号　1994 年 10 月
⑩　夜半亭几董の誕生：大阪俳文学研究会『会報』29 号　1995 年 10 月
⑪　夜半亭の“危機”：新稿

(2)

Ⅴ　悲運のひと・大魯

⑫　悲運のひと・大魯：新稿

第三章　蕪村の俳諧

Ⅰ　俳諧の方法

⑬　蕪村反転の法―または句兄弟について―：俳文学会『連歌俳諧研究』63号　1982年7月

⑭　近代の「蕪村」・近世の「蕪村」：至文堂『国文学　解釈と鑑賞』　1998年5月

⑮　蕪村の歳旦・賀句：紫薇の会『紫薇』7号　1998年6月

⑯　蕪村・滑稽句：紫薇の会『紫薇』9号　1999年2月

Ⅱ　俳諧の読解

⑰　木曾路行：俳文学会『連歌俳諧研究』70号　1986年1月

⑱　嵐山風雅：和泉書院『ことばとことのは』3号　1986年6月

⑲　橘の香―蕪村の「恋」―：大阪俳文学研究会『会報』21号　1987年10月

⑳　蕪村・貴賤風雅論：大阪大学国語国文学会『語文』62／63号　1995年1月

第四章　蕪村の文人性

Ⅰ　文壇の中の蕪村

㉑　蕪村・嘯山・詠物詩：和泉書院『ことばとことのは』2号　1985年7月

㉒　其角・草廬・蕪村：汲古書院『俳諧と漢文学』（和漢比較文学叢書16）　1994年6月

㉓　蕪村の趣・草廬の方法：学燈社『国文学　解釈と教材の研究』12月号　1996年12月

＊上記のうち、以下は本書のための新稿である。

序文：蕪村追悼『から檜葉』から

②　蕪村・滑稽交友録

⑪　夜半亭の“危機”

⑫　悲運のひと・大魯

3、蕪村（岩波新書）　単著　岩波書店　2000年12月

4、蕪村余響　―そののちいまだ年くれず―　単著　岩波書店　2011年2月

＊本書は、あとがきにもあるように、もとは故澁谷道氏の俳誌『紫薇』に掲載した小文をもとにしている。澁谷氏の発案でこのなかから七編を集めて、『蕪村余響』と題して小冊子をまとめてもらった（2002年7月）。これを核にして、大幅な加筆をおこない、さらに新稿を交えて一書とした著述である。本書各編のタイトルを順に掲げておくことにする。なお、新稿二編のみ、掲載誌に関して注記する。

Ⅰ　暮らしのなかで

①　市井に生きる夜半翁―蚊屋の内にほたる放してアヽ楽や―

②　一身にして二芸あり―「はいかいは好物故、手ばまりのみ多く候」―

Ⅱ　仲間とともに

③　葛の翁―とし守夜老はたうとく見られたり―

④　島原冬景―寒垢離や上の町まで来たりけり―

⑤　茶人と文人―春の夜や宗佐の庭を歩きけり―

⑥　泰里の上洛―点茶そして煎茶へ―　『近世文芸』80号　2004年7月

⑦　秋成の悪たれ口―何人ぞ来ては鵜川をかなしがる―

Ⅲ　融通無碍の創意をのせて

⑧　いろはに発句―花すゝきひと夜はなびけむさし坊―

⑨　「む」「し」の話―枯なんとせしをぶどうの盛りかな―

⑩　季重なりのすすめ―みの虫の古巣に添ふて梅二輪―

⑪　美しき妻―腰ぬけの妻うつくしき巨燵かな―

⑫　柿童子と秋興の翁―行秋やよき衣きたる掛リ人―

⑬　蕪村筆「奥の細道絵巻」―「風流洒落を第一に揮毫仕候」―

⑭　蕪村の「奥の細道」―「壺碑」のえがき方―　関西大学『国文学』89号　2005年2月

Ⅳ　人生の終焉にむけて

⑮　重篤の床で―「夢の回りたるごとく覚て」―

⑯　金福寺覧古―我も死して碑に辺せむ枯尾花―

＊上記のうち、新稿は以下の二編。

⑥　泰里の上洛―点茶そして煎茶へ―　『近世文芸』80号　2004年7月

⑭　蕪村の「奥の細道」―「壺碑」のえがき方―　関西大学『国文学』89号　2005年2月

5、日本人のこころの言葉　蕪村　　単著　創元社　　2014年8月

6、蕪村の名句を読む（河出文庫）　編著　河出書房　2016年12月
（『風呂で読む　蕪村』の改訂・改題本）
7、蕪村文集（岩波文庫）　編著　岩波書店　2016年12月

〔編著書（共編著を含む）〕

1、藻塩草　本文篇　共編著（大阪俳文学研究会編）　和泉書院　1979年12月
2、藻塩草　索引篇　共編著（大阪俳文学研究会編）　和泉書院　1983年2月
3、蕪村集　単編著　和泉書院　1984年3月
4、与謝蕪村・小林一茶（新潮古典文学アルバム）
共著（2名）　新潮社　1991年3月
5、蕪村書簡集（岩波文庫）　編著（2名）大谷篤蔵　岩波書店　1992年9月
6、蕪村全集　第八巻「関係俳書」
編著（3名）櫻井武次郎・清登典子　講談社　1993年3月
7、蕪村全句集　編著（2名）清登典子　おうふう　2000年6月
8、与謝蕪村―翔けめぐる創意―
編著（9名）辻惟雄・河野元昭・小林忠・早川聞多・奥平俊六・狩野博幸・佐藤康宏・安永拓世
ＭＩＨＯ　ＭＵＳＥＵＭ　2008年3月
9、与謝蕪村（別冊太陽）　編著（監修）（7名）辻惟雄・岡田英之・柏木知子・清登典子・塩崎俊彦・鈴木洋保
平凡社　2012年12月

〔学術論文〕

【査読あり】

＊論文集『蕪村　俳諧遊心』に収録した論考は省く。

1、蕪村とその連衆―虚栗調をめぐって―
単著　大阪大学文学研究科『待兼山論叢』11号　1977年3月

2、『続明烏』の諸問題　単著　大阪俳文学研究会『会報』32 号
1998 年 10 月

3、蕪村異形の句　単著　大阪俳文学研究会『会報』36 号
2002 年 10 月

4、浮瀬賛句と高津頌句　単著　大阪俳文学研究会『会報』37 号
2003 年 10 月

5、泰里の上洛―点茶そして煎茶へ―
単著　日本近世文学会『近世文芸』80 号
2004 年 7 月

6、蕪村筆「奥の細道図」本文対照一覧
単著　大阪俳文学研究会『会報』38 号
2004 年 10 月

7、蕪村画「諫鼓鳥図」の粉本　単著　大阪俳文学研究会『会報』40 号
2006 年 10 月

8、武江春色―芭蕉庵の「花の雲」―
単著　大阪俳文学研究会『会報』41 号
2006 年 10 月

9、蕪村・鉄斎写「桃華僊図巻」―謝寅号の由来―
単著　大阪俳文学研究会『会報』42 号
2008 年 10 月

10、〈閑〉と連衆―『嵯峨日記』の含意―
単著　大阪俳文学研究会『会報』44 号
2010 年 10 月

11、夜半亭の句会　単著　大阪俳文学研究会『会報』46 号
2012 年 10 月

12、其角『いつを昔』の舞台裏―芭蕉との対話―
単著　大阪俳文学研究会『俳文学報』（会報）47 号
2013 年 11 月

13、芭蕉の歳旦―新たなる俳境への模索―
単著　大阪俳文学研究会『俳文学報』（会報）　48 号
2014 年 11 月

14、蕪村俳画論序説　単著　大阪俳文学研究会『俳文学報』（会報）50 号
2016 年 10 月

15、三井寺の名月―芭蕉の月見・蕪村の月見―
単著　大阪俳文学研究会『俳文学報』（会報）　51 号
2017 年 10 月

16、俳画の流れとその作品　単著　大阪俳文学研究会『俳文学報』（会報）　51 号
2017 年 10 月

【査読なし】

＊論文集『蕪村　俳諧遊心』に収録した論考は省く。

１、樊噲・朝比奈・桃太郎―近世桃太郎の誕生―
単著　田中裕先生の御退職を記念する会『語文叢誌』
1981 年 3 月

２、蕪村書簡の奇遇　単著　岩波書店『図書』3 月号　1999 年 3 月

３、蕪村余響　単著　紫薇の会『紫薇』11 号　1999 年 10 月

４、蕪村・遠近論　単著　九州大学国語国文学会『雅俗』７号
2000 年 1 月

５、雲に寄せる恋情―蕪村の恋情―
単著　紫薇の会『紫薇』13 号　2000 年 6 月

６、市隠憧憬―近世中期文人の一断面―
単著　岩波書店『文学』1/2 月号　2001 年 1 月

７、「十便十宜画帖」考―池大雅との交叉―
単著　至文堂『国文学　解釈と鑑賞』2 月号
2001 年 2 月

８、蕪村「太祇頌」　単著　紫薇の会『紫薇』16 号　2001 年 6 月

９、蕪村「禁足花見之記」　単著　紫薇の会『紫薇』17 号　2001 年 10 月

10、『続明烏』のかたち―夜半亭撰集論―
単著 関西大学国文学会『国文学』83・84 合併号
2002 年 1 月

11、句集出す出さざるの弁　単著　紫薇の会『紫薇』19 号　2002 年 6 月

12、『其雪影』のねらい―夜半亭撰集論―
単著　岩波書店『文学』1/2 月号　2003 年 1 月

13、夢はめぐる浪華の芦（上）　単著　紫薇の会『紫薇』21 号　2003 年 6 月

14、雑俳の〈うた〉―大坂版『折句小筌』の意味―

単著　学燈社『国文学　解釈と教材の研究』7月号
2003年7月

15、夢はめぐる浪華の芦（下）　単著　紫薇の会『紫薇』22号　2003年10月

16、島原冬景　単著　紫薇の会『紫薇』23号　2004年6月

17、季重なりのすすめ―めぐる季節のなかで―
単著　紫薇の会『紫薇』24号　2004年10月

18、蕪村の「奥の細道」―「壺碑」のえがき方―
単著　関西大学国文学会『国文学』89号
2005年2月

19、離情のなみだ―蕪村の「奥の細道」―
単著　紫薇の会『紫薇』26号　2005年3月

20、さびしき秋の寺―芭蕉古寺巡礼―
単著　本阿弥書店『俳壇』11月号　2005年11月

21、秋成の悪たれ口―序文の舞台裏―
単著　紫薇の会『紫薇』26号　2005年11月

22、治者の文雅―白河侯と花月老人―
単著　岩波書店『文学』1/2月号　2006年1月

23、蕪村の薫陶―つれそいあゆむ師弟―
単著　紫薇の会『紫薇』27号　2006年3月

24、さまざまなる〈故郷〉―蕪村・望郷の時空―
単著　前橋文学館『萩原朔太郎と与謝蕪村展』
2006年10月

25、酒の町池田の輝き―『誹諧呉服絹』の文雅―
単著　関西大学国文学会『国文学』91号
2007年3月

26、能狂言ぶりの歳旦―夜半翁、意気込みだけは―
単著　紫薇の会『紫薇』28号　2007年3月

27、加悦の近世俳諧　単著　加悦町『加悦町史』資料編（第1巻）
2007年3月

28、「奥の細道画巻」の創出―画室のなかの蕪村―
単著　学燈社『国文学・解釈と教材の研究』4月号
2007年4月

29、夜半亭の周縁―蕪村と南山城の俳諧―
単著　南山城郷土資料館図録
『南山城の俳諧―芭蕉・蕪村・樗良―』
2007年10月

30、〈唱和〉のこころ―連帯と紐帯の句法―
単著　紫薇の会『紫薇』29号　2007年11月

31、芭蕉の絵　単著　岩波書店『文学』1/2月号　2008年1月

32、蕪村と晶子　単著　大阪府立大学上方文化研究センター
『研究年報』9　2008年3月

33、蕪村二都物語　単著　MIHO　MUSEUM
『与謝蕪村―翔けめぐる創意』2008年3月

34、蕪村初午道の記　単著　伏見稲荷大社『朱』52号　2008年3月

35、蕪村の句会　単著　角川書店『句会の楽しみ』　2008年10月

36、梅があるじ　単著　紫薇の会『紫薇』30号　2008年11月

37、〈書家〉蕪村　単著　たばこと塩の博物館
『TASC　MONTHLY』396号
2008年12月

38、新出・蕪村評点帖―南山城の俳諧と蕪村―
単著　関西大学国文学会『国文学』93号
2009年3月

39、伊勢長島「独楽園」の成立と賀詞―増山雪斎と木村蒹葭堂―
単著　関西大学なにわ・大阪文化遺産学叢書9
『長島侯増山雪斎独楽園賀詞帖』
2009年3月

40、川端康成の「蕪村文台」　単著　角川書店『俳句研究』夏の号　2009年6月

41、芭蕉と蕪村の「奥の細道」　単著　関西大学図書館『フォーラム』14号
2009年6月

42、茶の湯と中興俳諧―変容する文事と茶事―
単著　竹林舎『江戸文学からの架橋
―茶・書・美術・仏教―』　2009年7月

43、季語の奥行き　単著　角川書店『俳句生活』「季語の楽しみ」
2009年10月

44、〈待つ〉詩学　単著　紫薇の会『紫薇』31 号　2009 年 11 月

45、蕪村と伏見の仲間たち　単著　関西大学国文学会『国文学』94 号
2010 年 2 月

46、硝子戸のながめ―籠居のなかの写生―
単著　角川書店『正岡子規の世界』　2010 年 6 月

47、春坡百回忌紀念俳書展覧会　単著　関西大学国文学会『国文学』96 号
2012 年 3 月

48、蕪村句集論　単著　岩波書店『文学』5 ／ 6 月号　2012 年 5 月

49、蕪村・太祇の色紙一双―みちのくからの来客―
単著　関西大学国文学会『国文学』98 号
2014 年 3 月

50、俳人の“終焉記”　単著　関西大学国文学会『国文学』99 号
2015 年 3 月

51、安永七年三月佳則宛蕪村書簡―夜半翁、画俳の展開―
単著　天理図書館『ビブリア』144 号
2015 年 10 月

52、「未来記」俳諧新論　単著　関西大学国文学会『国文学』100 号
2016 年 3 月

53、蕪村の旅と吟行―天明俳諧の一断面―
単著　岩波書店『文学』3 ／ 4 月号　2016 年 3 月

54、蕪村句稿の世界―夜半亭の楽屋―（講演録）
単著　天理図書館『ビブリア』145 号
2016 年 5 月

55、其角『花摘』の舞台―亡母追善句日記から蕉門撰集へ―
単著　関西大学国文学会『国文学』101 号
2017 年 3 月

56、蕪村と秋成の交友　上　単著　日本伝統俳句協会『花鳥諷詠』350 号
2017 年 5 月

57、蕪村と秋成の交友　下　単著　日本伝統俳句協会『花鳥諷詠』351 号
2017 年 6 月

〔学界展望〕

1、2004 年俳文学展望―中継点に立って―

単著　角川書店『俳句年鑑』2004 年版

2005 年 1 月

2、2005 年俳文学展望―目録を読もう―

単著　角川書店『俳句年鑑』2005 年版

2006 年 1 月

3、2006 年俳文学展望―研究書の賞味期限―

単著　角川書店『俳句年鑑』2006 年版

2007 年 1 月

4、2007 年俳文学展望―長距離ランナーをめざそう―

単著　角川書店『俳句年鑑』2007 年版

2008 年 1 月

5、2008 年俳文学展望―“俳諧隠者”芭蕉の心遣い―

単著　角川書店『俳句年鑑』2008 年版

2009 年 1 月

6、2009 年俳文学展望―学問の距離感―

単著　角川書店『俳句年鑑』2009 年版

2010 年 1 月

7、2010 年俳文学展望―弱体化する俳諧学―

単著　角川書店『俳句年鑑』2010 年版

2011 年 1 月

8、2011 年俳文学展望―ふたつの課題―

単著　角川書店『俳句年鑑』2011 年版

2012 年 1 月

9、2012 年俳文学展望―学会誌の課題―

単著　角川書店『俳句年鑑』2012 年版

2013 年 1 月

〔書評〕

1、清登典子著『蕪村俳諧の研究―江戸俳壇からの出発の意味』

単著　日本文学協会『日本文学』9　2005 年 7 月

2、松林尚志著『芭蕉から蕪村へ』―求道と快楽―

単著　角川書店『俳句』2月号　2008年2月

3、絹街道の俳諧―玉城司著『上州 富永家の俳諧』―

単著　早稲田大学『国文学研究』153/154号

2008年3月

4、粋なはからい！―『ことばにみる江戸のたばこ』頌―

単著　たばこと塩の博物館

『TASC MONTHLY』389号　2008年5月

【その他】

〔辞典類〕

1、『日本名句集成』　（編者8名）飯田龍太・大岡信他

学燈社　1991年11月　35句

2、『俳文学大辞典』　（監修3名）加藤楸邨・大谷篤蔵・井本農一

角川書店　1995年10月　30項目以上

〔エセー〕

1、角屋句会由来書―平成の蕪村忌―

単著　角川書店『俳句研究』3月号　2006年3月

2、売立目録美術館―〈蕪村〉捜しの日から―

単著　池田文庫『池田文庫館報』29

2006年6月

3、慈愛の笑顔―金谷治先生のなつかしさ

単著　伊賀百筆編集委員会『伊賀百筆』16

2006年12月

4、第二回島原〔蕪村忌〕大会顛末―蕪村像も一座―

単著　角川書店『俳句研究』3月号

2007年3月

5、仮装する芭蕉―月山・湯殿山順礼―

単著　馬酔木発行会『馬酔木』1000号

2007年6月

6、蕪村のゆりかご・毛馬と淀川　単著　大阪市都市工学情報センター

『大阪人』3月号　2008年3月

７、第三回島原〔蕪村忌〕大句会端書―俳句の〈震度〉―
単著　角川書店『俳句研究』春の号　2008 年 3 月
８、第四回島原〔蕪村忌〕大句会追想―子規の眼光―
単著　角川書店『俳句研究』春の号　2009 年 3 月
９、第五回島原〔蕪村忌〕大句会寸辞―不在のなかの存在感―
単著　角川書店『俳句研究』春の号　2010 年 3 月
10、高秋爽気澱河舟遊　単著　火星俳句会『火星』2 月号　2011 年 2 月
11、第六回島原〔蕪村忌〕大句会の試み―〈蕪村〉を読む―
単著　角川書店『俳句研究』春の号　2011 年 3 月
12、山崩れ川流れて―天変地異と『奥の細道』―
単著　大修館書店『国語教室』94 号
2011 年 11 月
13、こがらしのゆくえ―冬果てて春の海―
単著　ＮＨＫ学園『俳句』春号　2012 年 3 月
14、第七回島原〔蕪村忌〕大句会の試み―蕪村・太祇友情の句会―
単著　角川書店『俳句』4 月号　2012 年 3 月
15、世々をつなぐ想い―「貞徳終焉記」の眼福―
単著　本阿弥書店『俳壇』7 月号　2012 年 7 月
16、遊人蕪村　単著　祇園甲部組合『ぎをん』213 号
2013 年 1 月
17、「衆議一決」蕪村句会　単著　『澤』　184 号　2015 年 7 月
18、宇宙のさくら　単著　『山梨県立文学館館報』98 号　2016 年 3 月
19、蕪村句集の道すじ　単著　本阿弥書店『俳壇』　425 号　2017 年 7 月

〔講演・座談会記録〕

１、蕪村を読み直そう　（5 人）坪内稔典・小枝恵美子・児玉硝子
船団の会『船団』88 号　2011 年 3 月
２、俳諧の華・俳句の精神―蕪村と『玉藻集』―
単著　火星俳句会『火星』2 月号　2011 年 9 月
３、蕪村　春風に吹かれて　単著　山茶花発行所『山茶花』803 号
（800 号記念講演）2014 年 3 月
４、夜半亭蕪村の句会　単著　結社雨月『雨月』800 号　2015 年 11 月

5、蕪村余響 300 年　　（4 名）岩波書店『文学』3 ／ 4 月号
2016 年 3 月

6、蕪村句稿の世界―夜半亭の楽屋―
単著　天理図書館『ビブリア』144 号
2016 年 5 月

〔新聞〕

1、うき世のほか　　単著　産経新聞・夕刊 2004 年 4 月～ 2007 年 3 月
＊毎週 1 回の連載。

2、京都・島原の「角屋」で句会　　単著　毎日新聞・夕刊　　2005 年 12 月 9 日

3、蕪村忌のねじれ模様　　単著　京都新聞・朝刊　　2006 年 2 月 20 日